

プロレタリア通信 No.2

内外情勢と我々に与えられた任務

一序

三人マルクスが一切のブルジョアイデオロギの虚飾を暴露し、資本制生産の普遍的発展によつてのみだされたプロレタリアートの世界的存在とその自己止揚に、その階級社会のもつ全ての予盾の根絶の鏡を提出してから、二月の革命は最も革命的な展開力を与えながら、その成果物の一切を自己の掌中からブルジョアジーに奪い去られた。プロレタリアートがまだ十分に組織も、準備も、綱領も持たないままにブルジョアジーに対してはじめてバリケードをけんたの戦を挑んでから、度々十年の年月が経過した。その間、オーストリアの過渡期から、ロシアにおけるブルジョア権力の没落し、レーニンに導かれたボリシエウキが権力を掌握することまで、全世界の明瞭な形を以て階級支配の最後の担当たるブルジョアジーを打倒して、高層に登達した生産力と宇宙の資源とをプロレタリアートが自己の手中に集め、返すべきに、世界史のページが切り拓かれた。その後、この十月の革命は、二三年のドイツ、ロシア、中国の敗北に至る迄、全ヨーロッパを覆いつくした革命の一時期、一九年の大恐慌とそのたゞのついでにブルジョアジーの動搖の一時期、二度目の帝国主義戦争と現代帝国主義の危殆的謀略を露呈するいくつかの過程を、至らぬから進んで来た。にもかかわらず、オーストリアと戦争の過程から生み出された何層かの決戦の一時期を、中国、プロレタリアートは、加えられた打撃を最後に切り抜けた。国際帝国主義者達はその幾何学的な未解決のプロレタリアートの支配に比較的安定した力をもつ事が出来た。そして資本の最後の相闘な進行が資本主義の矛盾の露呈を背景に押しやり、ブルジョアジーがわれ先に生産の拡大に狂奔していたブルジョアの平和な

増大と共に、国体制の長期にわたる共存や、現代世界の「構造的变化」にもとづく社会主義への平和的移行という幻想さえ現実的になるかのように考えられ始めて来た。しかし、昨年からはっきりとあるシリア、インドネシア、ヨルダン、レバノン、イラク等におけるいわゆる「平民的」手段によるところの革命的民主主義の斗争の発展、著しくプロレタリア、農民階級を帯びつゝ進展しているアルジェリアでの革命戦争が生み出したフランスブルジョアジーの支配の危殆等はブルジョアジーの「平和」な「神話」の夢を打破するに十分であった。資本主義の発展が最もおくれ、それ故にこそその矛盾の開始は最も早く加えられざるを得ないアラブにおける激突の開始は何を意味するだろうか。ブルジョアの具体的末端ではその心臓部より速く激突(危機)する(マルクス)が、おそらくは資本主義と最大の規模をもつであろう激突に向つての世界史の不可避的な進行と共に、このような末端部における激突の始まりは、ブルジョア社会の心臓部であるアメリカにおける、ヨーロッパにおけるこれに匹敵するであろう。世界史で何層かの決戦の巨欠刻一刻と迫りつゝある。いまこそすべての共産主義者は、スリと自覚せよはかなう。階級に我々はいる。資本主義の死の苦悶の中で、それをプロレタリア世界革命に転換させる事か出来るか、それともブルジョアジーにこの恐慌を一層強化して投げ出すことを可能にする事か出来るかの争いは、プロレタリアートとその指導部の手中に握られている。

① FRANK THORNTON の説

第一の前提が歴史として、若干の土地所有者が、小ブルジョア...

を維持しようとする。その結果として、フランスの共和政...

敗北の教訓を正しく学ぶことは、現在特に重要である。

② フランスの現状

現在フランスに起るものは、フランスがアメリカ、イギリス...

③ フランスの将来

昨年八月、四五を記録した、今年の四月には二六にまで落ち...

不信の眼を敵に対してではなく、今日の同盟者に向きかえ、ブルジョア革命の激戦を盟口の解放に至る途程をせねばならぬことは、マルクスが四八年の革命の中から教訓として導き出し、ドイツの共産主義者によびかけたところの革命的戦術に他ならない。たとするならば「帝口主義者」が外部からの侵略を計画する一方、手先を送りこんで「内」の不和を醸成し、民族政府を困らせようとしている。……資本は人民に對する其の目的が決定的な時期を過り過ぎるまで、天下を牛をしない以上、要請する」のような民族解放という段階的理論から出発したところの政治方針が何らの革命的意をもたないことはあきらかだ。また「中近東の情勢を正常にする」との各目的のもとに、中近東の激動を単に平和か戦争かとの観点からしか捉えず、一時的な「安定」から当然みちびきだされるところの革命の表退を現状維持的な「平和共存」の爲の外交の取引の爲に使つたという明かに正しくない。さてイラクに表現されたような下からのブルジョアの改革の道と同時に砂漠の監獄のトンカ川のほとりに幸じて維持されてくるボルタン王制を必ず死の深淵に叩きこむにちがいない。

中近東における一時的安定の現象も、世界資本主義の矛盾の発展、アラブにおける階級的矛盾の成熟によつて、それがほんの一時的な性格のものでしかないことを明かにするであろう。アラブに進行しては、革命的民主主義的階級の反帝斗争は、無産階級革命の初期的民主主義的斗争をプロレタリアートの指導下にのみならず、ブルジョア社会の心臓部に迄それを波及させる爲にたまたかわなければならぬ。生産力のブルジョアの生産関係と階級的階級に對する反逆をそのような方法で解放することによつて、始めてこれらの口における一切の矛盾の累積と歴史的「性」を掃討することが出来るであらう。

(後進)

(五) 結論

世界恐慌と植民地革命の進展に気もどうせんするばかりにあせりながら、口腹ブルジョア革命は「階級」としては不可避の損失の分配を各自ができるだけ自分の割前をへらして他人に轉賣いこませることによつてくりぬけようとする「力と狡猾」の性質を露わに始めてきている。才二次帝口主義戦争後、資本主義的發展のおくれた果て、ドイツの身体から切り捨て、東ドイツからの難民流入による膨大な階級階級の存在は、おとなく、植民地資本主義をなしとす「内」の階級斗争と、農業における自由な資本主義的進歩の道を掃きよめ、近代的なブルジョア的階級を強化しつ、より高貴な資本階級による階級を進行することによつて復活して来た日本「内」の階級斗争は、市場競争の一刃の激化をうけてきている。そしてその過程の中から形成しつつある面々ブルジョア階級の階級のもとで、西ドイツ、フランス、イタリア、ブルジョアの融合の発展、トルコ、ブルジョア階級とそれに従属するイギリス、ブルジョア階級の階級主義的階級の強化、日本帝口主義の自立の階級斗争は、あらゆる帝口主義的再編成が進行していることを告げている。

もし、我々があらゆる表退の入口にたつたこの帝口主義に決定的な強力な打撃を加え、帝口主義の打倒とプロレタリアート独裁の實現のために速座に闘いを組織することをのみならず、このような帝口主義的階級の激化を不可避にし、あらゆる帝口主義戦争への道を切拓くであろうことは疑いない。そして彼らは戦争準備政策による階級階級の激化の一時的なひきおかしによつてではなく、直接的な帝口主義戦争にさえ期待をよせ、台湾にみられるような帝口主義的侵略をのぞいている政治情勢の進展は、平和共存の階級階級斗争の階級斗争が階級階級の過渡の中からは、階級階級斗争の「内」の階級斗争としておこなわれるという幻想の確信をますますはつきりと示している。

敵の集中的攻撃の前に、後退と逡巡をうけ、日本帝口主義ブルジョア

アをもつとも狂熱な侵略者として再び登場させることを許すか、それとも階級階級の后退に終止符をうち、敵の攻撃を粉碎して革命の突撃口をひらく光榮ある任務を遊行するかの力かは、唯(唯一)プロレタリアートの手中に握られている。日本におけるプロレタリア独裁の樹立は、ブルジョア階級の世界支配の不可欠の一面に致命的な打撃を与えることになるであらう。資本主義階級は、階級階級の革命の進行を阻むべきあらゆる階級階級の「内」の階級斗争と、社会主義階級階級の階級斗争とを、全世界恐慌の中で、面々ブルジョア階級の階級斗争を展演させ、彼らを自らの権力にみちびかせることによつて、世界革命の壮大な一ページを切り拓くにちがいない。

吾等故に於ける斗いと、それに対する薄圧は、それを最もあつやくに示すものであつた。

その上にこれまで公然陰謀と行われて来た薄圧、労働基本権に対する制限を合理化し、法制化し、一歩進める目的をもつて労働三法の廃止、公務員法の改定、任意労働制度の採用等が自論を唱へている。朝鮮労働運動の「改正」はそのあまりにも公然たる第一歩でしかない。

「官派村橋と軍隊、警察等の暴力装置の拡大整備はかく、日本フルジョアジの一つの主要な努力の傾注点となつてゐるのだから。」

① 日本帝国主義をいささかも減少評価する事は許さぬ。日本フルジョアジの政策は不況の進行の中で、米炭炭屑は下つて産業が停滞を呈するに至つて、遂にその割合が漸く増進した政策を付する。階級斗争を自らのヘゲモニーで展開し、不況の中で独占の一方の策中、強化を實現し、帝国主義として完全を旨とし、天候その一切の事は、薄圧をへき種を分擔に當つて世界市場を專断し、西独に至して力を出す。それは日本帝国主義の政策である。

現実の階級斗争の進行は「日本は半帝國であり、日本人民の階級は民族分立であり、今こそ民族民族主義統一戦線の結成が必要」とする空想をドグマの硬直を一刻と失すところなく証明している。又、プロレタリアートの専断の専取と、

社会主義を極度に宣傳して「我々の民主的任務」を「専断の専取」の展開のツカサとして、階級的に薄圧する。第五十年の日本の現状を述べたい。

③ 日本と朝鮮の状況とその指導の中心に

① 趙天に近づく階級斗争に於いて、この歴史の鏡をたぎる。階級斗争の中心に

第五十年の階級の變遷と階級の斗争の中で、次々と敗北を遂げ、薄圧されて来た。日本労働者階級のその求めも、第五十年の階級斗争を導き出すことである。

ブルジョアジーの必死の、そして驚くべき巧みさをもつて、階級の闘いで進む。階級の斗争の進行の中で、次々と敗北を遂げ、薄圧されて来た。日本労働者階級のその求めも、第五十年の階級斗争を導き出すことである。

ブルジョアジーの必死の、そして驚くべき巧みさをもつて、階級の闘いで進む。階級の斗争の進行の中で、次々と敗北を遂げ、薄圧されて来た。日本労働者階級のその求めも、第五十年の階級斗争を導き出すことである。

② 今までの階級斗争は、日本は半帝國であり、日本人民の階級は民族分立であり、今こそ民族民族主義統一戦線の結成が必要」とする空想をドグマの硬直を一刻と失すところなく証明している。又、プロレタリアートの専断の専取と、

川で革命的部分を生み出すにはおろかな。階級斗争の中心に

第五十年の階級の變遷と階級の斗争の中で、次々と敗北を遂げ、薄圧されて来た。日本労働者階級のその求めも、第五十年の階級斗争を導き出すことである。

ブルジョアジーの必死の、そして驚くべき巧みさをもつて、階級の闘いで進む。階級の斗争の進行の中で、次々と敗北を遂げ、薄圧されて来た。日本労働者階級のその求めも、第五十年の階級斗争を導き出すことである。

④ 日本と朝鮮の状況とその指導の中心に

① 趙天に近づく階級斗争に於いて、この歴史の鏡をたぎる。階級斗争の中心に

第五十年の階級の變遷と階級の斗争の中で、次々と敗北を遂げ、薄圧されて来た。日本労働者階級のその求めも、第五十年の階級斗争を導き出すことである。

ブルジョアジーの必死の、そして驚くべき巧みさをもつて、階級の闘いで進む。階級の斗争の進行の中で、次々と敗北を遂げ、薄圧されて来た。日本労働者階級のその求めも、第五十年の階級斗争を導き出すことである。

② 今までの階級斗争は、日本は半帝國であり、日本人民の階級は民族分立であり、今こそ民族民族主義統一戦線の結成が必要」とする空想をドグマの硬直を一刻と失すところなく証明している。又、プロレタリアートの専断の専取と、

軍を回撃する傾向は、日本労働者階級の斗争に重大な影響をもち
ていようである。

①このように方針同乗隊の上では、旧折衷派の右派主義、右
翼的折衷主義の助長がなつてゐる。

②この傾向は、今日斗争の趨勢、労働者階級の政治斗争の動
向を決定する重要な要素である。

③折衷的斗争は、つて自治会解散を阻止し、全日の学生の大動
向を抑制し、労働大の学生に打ち、彼等が僅か八十名の限
り「ボイコット」をして叫喚するばかりか、故力の弾圧が学生
階級の及ぶ事を極端主義の傾向にある。

④このように方針同乗隊は、党内官僚主義の徹底的な強化に
つて支えられ、強められ、なつてゐる。

⑤この傾向は、労働者階級の斗争の趨勢、労働者階級の政治斗争の動
向を決定する重要な要素である。

⑥この傾向は、今日斗争の趨勢、労働者階級の政治斗争の動
向を決定する重要な要素である。

三

党の状況は、大回大回を転じて、明かに新しい段階に入
つた。労働斗争の進展は党内斗争に新たな動きをもたらす事を知
れぬ。

しかし、現在、旧折衷的傾向を中心に結果とれた官僚主義者
な基本的な権威を確立し、しかも一日一日と強固化してつ
つある事を懸念してはならぬ。

労働階級のいかなる斗争をさてもいへも、何よりも学生階級に
結果とれた革命の勢力の責任に全力を捧げなくてはならぬ。

今こそ革命的共産主義者同階級に注意を集中し、革命
的階級の結束のため斗争がわかれなければならない。

学生階級内部の革命的階級の動向は、ある意味で日本革命の
今右に決定的影響を帯びてゐるといえる。

①この傾向は、今日斗争の趨勢、労働者階級の政治斗争の動
向を決定する重要な要素である。

②この傾向は、今日斗争の趨勢、労働者階級の政治斗争の動
向を決定する重要な要素である。

③折衷的斗争は、つて自治会解散を阻止し、全日の学生の大動
向を抑制し、労働大の学生に打ち、彼等が僅か八十名の限
り「ボイコット」をして叫喚するばかりか、故力の弾圧が学生
階級の及ぶ事を極端主義の傾向にある。

④このように方針同乗隊は、党内官僚主義の徹底的な強化に
つて支えられ、強められ、なつてゐる。

- No. 1. 山本
 - No. 2. 青木トシカ
 - No. 3. 鳥
 - No. 6. 青木
- 青木
↓
青木トシカ
青木トシカ

6. 2. 0. 2